

皆さん こんにちは。文化財課の児玉です。

先日、沖縄県の北谷町^{ちやたんちょう}の平安山原B遺跡^{はんざんぼる}から「亀ヶ岡式土器」^{かめがおかしき}が出土したというニュースが新聞等で大きく報道されました。見つかった土器は、浅鉢^{あさぼち}の台の部分とみられる5センチメートルほどの小さな土器の破片です。「工字文」^{こうじもん}と呼ばれる迷路のような手法を用い、亀ヶ岡式土器の終末期にみられる文様です。

亀ヶ岡式土器は、つがる市の亀ヶ岡遺跡の土器を基準とする東北地方の縄文時代晩期（約3,000～2,400年前）の土器の総称で、華麗で精巧なつくりを特徴としています。模倣品を含む亀ヶ岡式系統の土器は、西日本では奈良県橿原遺跡^{かしはら}や高知県居徳遺跡^{いとく}などで見つかっていましたが、今回、亀ヶ岡遺跡から約2,000キロメートル離れた沖縄県で発見されたというから驚きです。

また、北海道では、根室市のベニケムイ遺跡からも亀ヶ岡式系統の土器が見つかっています。発掘調査が増加すると千島列島やカムチャッカ半島でも亀ヶ岡式系統の土器が発見されるかもしれません。

古代中国には「鬲」^{れき}という三足の足が付く特殊な形をした土器がありますが、これとそっくりな土器が青森県外ヶ浜町の今津遺跡^{いまづ}や南部町の虚空蔵遺跡^{こくぞう}などから出土しています。いずれも亀ヶ岡式土器の特徴をもっていますので、中国から直接もたらされた土器ではなく、中国の鬲を模倣して作ったとする考えや、偶然似たような土器を縄文人が作ったという考えがあります。

この鬲状の三足土器も沖縄で発見された土器も同じ時期（縄文晩期後葉）に作られたものです。この頃、北部九州では中国大陸の水田稲作農耕技術が伝来し、時間とともに東日本にも波及していきました。日本列島の各地で見つかった亀ヶ岡式系統の土器は、こうした背景に加え、交易（例えば、沖縄は貝・新潟はヒスイ・北海道は黒曜石など）による広域的な文化交流が関係していたものと思われま